

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和3年10月29日（金）17:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから10月29日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿いまして説明をいたします。

来週の定例会は、水曜日が休みなので火曜日になります。

議題は4つあります。

議題1が、審査実績を踏まえた規制基準等の具体化・表現の改善の特重版ということになります。

今週の非公開臨時会議の議題としても紹介したものののですけれども、審査実績を踏まえた特重版ということになります。

特重の許可基準の解釈などについて、審査実績が積み上がってきましたので、より具体的に表現できるようになった、そういった部分がありますので、その改正案を作ってパブリックコメントにかけますというのを諮るというものです。

議題の2つ目が、JAEAの次期中長期目標に係る対応ということになります。

先週、臨時会議でJAEAの経営層との意見交換というのがあったと思いますけれども、そのときそれをメインで議論されたようなのですが、JAEAの次の中長期計画、これは7年計画なので、2022年度から2028年度までの計画ということのようですけれども、来年度からなので今年度中の認可が必要になるということになります。それに向けた対応方針を諮るというものです。

原子力規制庁の共管部分と、共管していない部分というのがありますけれども、共管部分については目標の案が出まして、あと、共管していない部分についても、こういう目標が盛り込まれるべきではないのですかといった要望をすることが諮られます。

例えば規制の支援ができる人材を育成してほしいとか、廃止措置を確実に迅速にやってほしいといったようなことになります。

次が、議題3、福島沖海底土中のSr-90の分析仕様の不整合ということになります。

これは福島沖の海底の泥のSr-90の分析について、検出下限値の設定が違っていたというのが判明しまして、その旨と改善策を報告するというものになります。

計画で定められた正しい検出下限値というのが、0.1Bq/kgだったのですけれども、委

託先との契約の仕様書中で間違っ0.3としていたので、本当は下限値が0.1なら数字が出るはずのものが不検出、NDとなっていたというものになります。

間違っていたのは昨年の5月から今年5月までの1年間で、正しい数値に修正してホームページに掲載するとともに、再発防止策を講じるということになります。

次が、議題の4つ目、敦賀のボーリング柱状図データの検査の実施状況です。

これは8月17日の委員会で、業務プロセスを優先的に検査するという事になったことを受けまして、今月何度か原電に検査に入りましたけれども、その状況と、あと、今週火曜日に原電との公開会合がありましたけれども、その状況について報告するというものになります。

あと、議題にはないのですが、軽石の件、今週話題になりましたけれども、2年前に技術情報検討会で検討したこともありまして、その結果を資料として配付するという事のようにです。

あとは、11月4日の(2)の第1012回審査会合、これは東海第2の圧縮減容装置の許可についてということで、7月29日のコメント回答ということのようにです。

裏に行きまして、11月5日の(3)第1013回審査会合。

こちらは大間の内陸地殻内地震の地震動評価についてということで、この点については初めての会合ということになります。

次が、11月5日の(4)、中深度処分対象廃棄物の濃度決定方法に係る検討チームということですが、これは前回9月21日に引き続きまして、7月30日の第1回会合で規制庁側から行った説明依頼に対して、原子力学会からの回答を受けるということになります。

説明は以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。質問のある方は手を挙げてください。

では、お願いします。

○記者 新潟日報のヤマダです。お疲れさまです。

43回の規制委の議題3のSrの分析仕様の不整合ということなのですが、契約書、契約の内容が間違っていたと。

○黒川総務課長 契約の内容が間違っていて、その結果、要は、委託先は契約どおりにやったという。我々側の契約の仕様のほうが間違っていたと。

○記者 委託先に渡した契約書の内容が間違っていた。

○黒川総務課長 契約なので、渡すより結ぶものですが、この形の検出下限値で測定してくださいと、こちらが指示したものがそもそも間違っていたと。

○記者 1年間、従来検出してほしかった0.1Bq/kg分のもものが検出されなかった。

- 黒川総務課長 ただ、結局データは全部残っていますので、そのデータを使えば、正しいほうの検出下限値に沿った数字は解析で出せますので、その数字を今回ちゃんと作ってホームページに載せることにしたということです。
- 記者 下限値が設定が間違っていたけれども、データは一応検出はされているわけですね。
- 黒川総務課長 そうです。
- 記者 下限値が違うと、逆にどういうところが悪いというか、どういうことになるのでしょうか。
- 黒川総務課長 今回、下限値が、本来0.1のところ0.3になっていたということは、例えば0.2という数字だったときに、それが正しいほうであれば0.2という数字が出るのですが、0.3より小さいので、それは不検出、NDということで表示されていたと。
- 記者 でも、一応、すみません、繰り返しになりますけれども、データは残っているから、0.2とかそういうのを改めて遡及して、正しい数字をはじくことはできるということですね。
- 黒川総務課長 そもそも放射性物質の濃度の測定方法からして、長い時間やったデータがあれば検出下限を下げられるという性質のものなので、長い時間測ったデータというのが残っていたので、検出下限0.1に合わせた数字を出せるという状態だったということです。
- 記者 ちょっと最後の説明がよく分からなかった。ごめんなさい。
- 黒川総務課長 私も技術的説明は完全にはできないので、当日に聞いてもらえばと思います。
- 記者 議題2の共管部分は、すみません、私不勉強で。共管部分は何かの略ですか。
- 黒川総務課長 そもそもJAEAというのは、経済産業省と文科省と原子力規制庁の3省が共同で管轄している法人なのですけれども、そのうち規制庁は安全部分だけを管轄しているので、例えばもんじゅをどうやってどうするんだみたいな利用側の部分は管轄していないので、原子力規制庁が管轄している部分については、こういう目標で、それは規制庁側が自分として案を決める部分なので、こういう案ですということ。
- あと、管轄していない部分については、それは経産省とか文科省の管轄部分になりますけれども、そこについてはこういうことを計画に盛り込んでほしいと思っていますというのの要望みたいなものを出すということです。
- 記者 共管というのは共同管理とか。
- 黒川総務課長 共同管轄の略なのです。
- 記者 共同管轄ですか。ありがとうございます。
- 司会 ほかにございませんでしょうか。
- では、真ん中後ろの方、お願いします。
- 記者 共同通信のヒロエです。

僕も議題3について御質問なのですけれども、1年間で出していたのは、何回そういうデータ。1日1回出すようなものなのですか。

○黒川総務課長 いや、そういうものではなくて、何ヶ月に1回測りにいくというもので、何ヶ月に1回測りにいくものが1年分、そういう状態になっていたということです。

○記者 NDだったことによって、そのNDの件数自体は、何ヶ月に1回というのが何ヶ所かという、そういう数。

○黒川総務課長 要は、全部の測定データが幾つ幾つ幾つと出るところ、幾つか本来数字が出ているところがNDになっていたと。

○記者 あと、そもそもなのですけれども、この検査自体はどういう扱いのものなのですか。

○黒川総務課長 すみません。詳しくはやはり当日聞いていただいたほうがいいと思いますけれども、総合モニタリング計画に基づいて、福島原発近傍のモニタリングというのはいろいろな役所がやっていますけれども、規制庁がやっている部分があって、そのうちの海底の泥の部分の、今回はSr-90の部分ですけれども、Sr-90の測定、他にももちろんしていますけれどもしているということです。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかはございませんか。

では、手前の方、お願いします。マイクをお願いします。

○記者 毎日新聞のヨシダです。

先ほどと同じく議題3なのですけれども、要するにこれは公表されるべきものが公表されていなかったということですか。

○黒川総務課長 公表はされていたというか、本来0。（れいてん）幾つみたいな数字で表現されているべきものがND、不検出という形で公開されていたということです。

○記者 この規制委員会のほうで今度そのデータが全部出てくると。

○黒川総務課長 正しいデータを出すことはできるので、正しいデータを作って載せませすということです。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかは。

では、左奥の方、お願いします。

○記者 読売新聞のアマザワです。

続けて議題3の確認なのですが、これは検出されていなかったとされていた0.2とかの値、これが出た場合は何か対応をしなければいけないような値だったのでしょうか。

○黒川総務課長 いや、そういう高い濃度ではないので、要は測定して結果を出すというもので、別にその数字が特に安全との関係で意味を持つというものではないです。

○記者 分かりました。

あともう一点だけ。たしかモニタリング、様々な主体がやっていると思うのですが、

海底土は規制庁がやっている部分の話なのですか。

○黒川総務課長 いろいろな役所がいろいろな部分をやっていて、私も全部は説明はできないですけれども、海底の泥の部分の規制庁がやっている部分についてということです。

○記者 分かりました。ありがとうございます。

○司会 ほかにはございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—